

神奈川県の手話を取り巻く状況について

1 神奈川県身体障害者手帳交付者数

(平成 26 年 3 月 31 日現在)

障害別	人 数
身体障害者	267,724 人
視覚障害	18,196 人
聴覚・平衡機能障害	23,016 人
音声・言語・そしゃく機能障害	3,425 人
肢体不自由	144,308 人
内部障害	78,779 人

〔出典：神奈川県「平成 26 年度保健福祉行政の概要(平成 26 年 6 月)」〕

2 聴覚障害者のコミュニケーション手段の状況

コミュニケーション手段	総 数	割 合
総数	338 人	100.0%
補聴器や人工内耳等の補聴機器	234 人	69.2%
筆談・要約筆記	102 人	30.2%
読話	32 人	9.5%
手話・手話通訳	64 人	18.9%
その他	23 人	6.8%
不詳	20 人	5.9%

複数回答のため、各項目の合計と総数は一致しない。

割合は、総数を 100 とした場合の割合。

〔出典：厚生労働省「平成 18 年身体障害児・者実態調査結果(平成 20 年 3 月 24 日)」〕

3 県内自治体における手話の普及等に係る主な取組みについて

(1) 神奈川県取組み

- ア 「かながわ障害者計画」の策定（平成 26 年 3 月策定）
- ・ 手話を新たに「言語」として明確に位置づけ

- イ 県聴覚障害者福祉センターの設置(昭和 55 年全国に先駆けて実施)
- ・ 手話通訳者及び要約筆記者の要請・研修
 - ・ 手話通訳者及び要約筆記者の派遣
 - ・ 情報提供
 - ・ 相談指導
 - ・ 聴覚障害者の理解促進
 - ・ 地域への支援
 - ・ 字幕入りビデオテープ等の貸し出し・製作

- ウ 県庁における手話通訳者の配置
- ・ 聴覚障害者が来庁した際に、手話を用いて申請や相談が行えるよう、手話通訳者を配置

- エ 県職員、企業等に対する普及
- ・ 県職員に対する手話講習等の実施
 - ・ 企業等に対する出前講座の実施

(2) 県内市町村の取組み（平成 27 年度）

ア 地域子ども教室運営事業（手話ダンス教室）（厚木市）

- ・ 地域子ども教室運営事業として、子どもたちの居場所づくりを図るため、スポーツや文化活動、地域住民との交流を目的とした取り組みの 1 事業として、音楽に合わせて手話を習得する手話ダンスを年間 11 回実施する。

イ 理解促進研修・啓発事業（逗子市）

- ・ 逗葉地域に在住する聴覚障害者に対する理解を深めるため、手話の学習会やろう者とのコミュニケーション（身振り、簡単な手話、サインマーム等）を学ぶイベント、簡単な手話やゲームなどで聴覚障害者との交流会を行い、手話を身近なものとして伝えていく。

ウ 手話ダンスによる健康づくり事業（平塚市）

- ・ ダンスに手話を取り入れたパフォーマンスを行う「HAND SIGN（ハンドサイン）」に公演やワークショップを委託し、障がい者が健康でいきいきと暮らせるまちづくりを行う。

エ 新規採用職員に対する職員研修（平塚市）

- ・ 新規採用職員に対する職員研修の一環として、障がい福祉課の設置通訳者による福祉体験（聴覚障害者への配慮と手話実技）を行う。

オ その他

- ・ 担当課窓口に手話通訳者を配置（厚木市ほか）
- ・ 市民を対象とした手話講習会の実施（茅ヶ崎市ほか）
- ・ 手話奉仕員養成のための手話講座の実施（厚木市ほか）